

## 説明書（高齢者肺炎球菌予防接種）

### ◆（20価）高齢者肺炎球菌予防接種とは

高齢者の肺炎の中で、最も頻度の高い「肺炎球菌」という細菌感染を予防するワクチンです。肺炎球菌には、100種類以上の血清型があり、定期接種で使用される「沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン（PCV20）」は、そのうち20種類の血清型を対象としたワクチンです。この20種類の血清型は、成人侵襲性肺炎球菌感染症の原因の約5～6割を占めるとい研究結果があります。また、このワクチンは、血清型に依らない侵襲性肺炎球菌感染症全体の3～4割程度を予防する効果があるという研究結果があります。

令和8年度より、定期接種で用いるワクチンが23価肺炎球菌荚膜ポリサッカライドワクチン（PPSV23）から、沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン（PCV20）に変更になりました。

### ◆予防接種対象者

寒川町に住民登録があり、過去に自費（任意接種）を含め肺炎球菌ワクチンを一度も受けたことがない方で、①又は②に該当する方

#### ①接種日現在、65歳の方

注) 定期接種の機会は65歳の1年間です。接種を希望する方は、接種の機会を逸することがないようご注意ください。

#### ②接種日現在、60歳以上65歳未満で心臓・腎臓・呼吸器の機能、または、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に障がいのある方（上記障がい名の身体障害者手帳1級相当の方）

注) 2回目以降は、公費負担助成はありません。局所の副反応が多くみられる場合があるので、かかりつけ医にご相談ください。

肺炎球菌感染症に対する定期接種は、生涯で1回のみ接種可能です。PPSV23を受けたことのある方は、沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン（PCV20）を受けられません。

### ◆使用するワクチンと接種方法

高齢者に対する肺炎球菌ワクチンは、沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン（PCV20）を用いて、1回筋肉内に接種します。

### ◆予防接種後の副反応と注意

ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、ショック・アナフィラキシー、痙攣（熱性痙攣含む）、血小板減少性紫斑病がみられることがあります。接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

発現割合	主な副反応
30%以上	疼痛・圧痛*（59.6%）、筋肉痛（38.2%）、疲労（30.3%）
10%以上	頭痛（21.7%）、関節痛（11.6%）
1%以上	紅斑、腫脹

注射の跡が赤くなる・はれる・痛む等や、熱が出る・悪寒・だるい等ありますが、通常2～3日のうちに治ります。その他、接種直後まれに発汗・じんましん・吐き気・呼吸困難等が起きることがあります。予防接種を受けた日の入浴は差し支えありませんが、激しい運動や飲酒はさげましょう。

注) 接種後30分は急な副反応が現れることがあるので、医師とすぐに連絡が取れるようにしましょう。

◆**予防接種の可能・不可能**

医師の診察の結果によっては、予防接種が受けられない場合があります。

わからないことがある場合は、予防接種を受ける前に医師や看護師に質問し、納得したうえで接種を受けましょう。

上記の説明を理解し、高齢者肺炎球菌予防接種を希望の方は、予診票にご記入のうえ接種を受けてください。

※高齢者肺炎球菌予防接種希望者で、被接種者(本人)が署名できない場合、代理人(家族)が署名し被接種者との続柄を記入してください。

◆**予防接種健康被害救済制度について**

予防接種の副反応による健康被害は、極めて稀ですが、不可避免的に生ずるものですので、接種に係る過失の有無にかかわらず、予防接種と健康被害との因果関係が認定された方を迅速に救済するものです。

予防接種法に基づく予防接種を受けた方に健康被害が生じた場合、その健康被害が接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定したときは、市町村により給付が行われます。

申請に必要な手続き等については、予防接種を受けられた市町村にご相談ください。(厚生労働大臣の認定にあたっては、第三者により構成される疾病・障害認定審査会により、因果関係に係る審査が行われます。)

寒川町 健康づくり課 健康づくり担当  
TEL 74-1111